

## 令和6年度 第3回小平市図書館協議会要録

- 1 日 時 令和6年9月24日（火）午後2時から3時28分まで
- 2 会 場 中央図書館 2階会議室
- 3 出席者 委員：落合会長、伊藤副会長、神子委員、栗林委員、石井委員、海老名委員、丹治委員、溝口委員、菅野委員、岡本委員 計10名  
事務局：利光中央図書館長、藤田（中央図書館長補佐兼庶務担当係長）、岡村（花小金井図書館長）、菅家（中央図書館サービス担当係長）、田中（中央図書館資料担当係長）、小林（中央図書館歴史公文書・調査担当係長）、平澤（大沼図書館長）、横山地域コミュニティ担当課長 計8名
- 4 傍 聴 なし
- 5 配布資料
  - ・小平市立図書館行事等の報告と今後の予定 (資料No.1)
  - ・第4次小平市子ども読書活動推進計画 令和5年度進捗状況の概要 (資料No.2-1)
  - ・第4次小平市子ども読書活動推進計画 令和5年度進捗状況 (資料No.2-2)
  - ・小平市立図書館における公衆無線LANサービスについて (資料No.3)
- 6 議事
  - (1) 報告事項
    - ①小川駅西口新公共施設等に関する条例（案）の検討状況について
    - ②図書館運営状況について
      - ・図書館行事等の報告と今後の予定について (資料No.1)
    - ③第4次小平市子ども読書活動推進計画 令和5年度進捗状況について (資料No.2)
    - ④小平市立図書館における公衆無線LANサービスについて (資料No.3)
    - ⑤市議会9月定例会について

### 報告事項についての意見・質疑応答

委員：新しい条例を制定することによって、現行の図書館条例も変更になるか。

事務局（地域コミュニティ担当）：

新しい条例は、複合施設全体の条例であるが、図書館条例についても小川西町図書館の所在地や開館時間等、改正が生じる。

委員：市と教育委員会それぞれの条例を踏襲するのか、それとも新しい条例とするのか。

事務局（地域コミュニティ担当）：

これまでは施設が別々であるため、それぞれの条例だったが、本施設は開館日や開館時間が共通となるため、1つの新しい条例の中で明確化する。また、施設の管理については、市長の所管で整理する予定。図書館、公民館の業務については、引き続き教育委員会が所管する予定。

委員：図書館の開館時間や臨時休館などは、これまで教育委員会で判断されてきたと思うが、市長の判断も入ると複雑になるのではないか。決定に優先順位はあるか。

事務局（地域コミュニティ担当）：

開館時間については、9時から22時までを想定しており、月1度の休館日は第三木曜日と考えている。他に図書の整理期間などもあるとは思いますが、臨時休館などは、必要に応じて市長部局、教育委員会どちらも決定することができるものとし、双方に情報共有を図るような運用を考えている。17時以降は、日中より内容を絞ってサービスを提供する予定でいる。

委員：17時以降は無人になるのか。

事務局：貸出しなどをセルフサービスで行っていただく予定。図書館業務を行う職員は無人となるかもしれないが、施設全体でのスタッフは駐在する予定でいる。

委員：市議会9月定例会での岩本議員の一般質問に関して。図書館利用率は40歳以下で減少し、41歳以上は増加したとの答弁であったが、この理由を分析しているか。若者世代の減少傾向は従前から続いているのか。

事務局：年齢層別にデータ抽出すると、40歳を境に利用傾向に変化が見られた。40歳以下の若い世代の利用率の低下は、電子媒体等からの情報を入手できることも影響しているだろうが、様々な要素が複合的に絡んでいると思われる。コロナ禍を経て、全体の利用は減少したが、40歳以上は回復傾向にある。

委員：Wi-Fiの整備について。以前、公民館でパソコンからWi-Fi接続を試みたが繋がりにくかった。図書館で導入するWi-Fiは、パソコンでも容易に接続が可能か。

事務局：今回、図書館で導入する公衆無線サービス（Wi-Fi）では、通信が3Gから5Gになる。また、今まで設けていた1時間の接続制限時間もなくするため、使いやすいものになる。スマートフォンでも接続しやすくなるよう、図書館内には二次元バーコードを掲示する。

委員：第5次子ども読書活動推進計画に関して。第4次小平市子ども読書活動推進計画にはサブタイトル「子どもが本と出会うために」とあるが、第5次計画でもサブタイトルを予定しているか。

事務局：サブタイトルは未定だが、つける予定である。

委員：文化庁は、月に1冊も本を読まない人（不読者）がこの5年間で15%増加したとの調査結果を公表した。スマートフォンやタブレット等が普及して電子機器の利用頻度が高まり、読書の時間にとって代わったと推測する。中学校でも、朝の読書の時間でしか本を読まない生徒が増え、この状況をどう変えていくかを本気で大人たちが議論すべきであろう。第5次の計画の中で何か効果的で画期的な策があるとよい。

会長：若年層で読書の時間が減ったと最近のニュースで聞いた。本協議会では以前、こどもたちは本を読んでいるという話も出ていたと思う。現状はどうか。

委員：朝読書を本校も実践しているが、朝読書でしか読まない生徒が多い。本を読むことは能動的な

ことであって、SNSのように受動的に、簡便に情報が入ってくるツールがあれば行動はそちらに流れやすい。読書習慣の定着、自発的な読書ができるようにするための議論をしなければならないと思う。

会長：小学生のうちによく図書館通いをしていた孫が、中学生になり、スマートフォンを持ったら、図書館に行かなくなった。自宅にある本も読まなくなった。読んだ本については、一行、二行でも気がついた点を書いたらどうかと勧めてみても書くことが面倒になっている。読み書きができない大人が増えるのではないかと危惧している。

委員：統計による中高生の読書時間の分布では、圧倒的に読書の時間が0の人が多数。2番目に多いのは30分以上で、実は読書時間が0分から30分までの人は少ないようだ。だとすると、30分以上読書をする層の行動分析が1つの課題かと思う。

会長：市議会9月定例会で一般質問に挙げた花小金井図書館の混雑について。自動貸出機を導入することで、少しは混雑の解消に繋がると思うが、検討状況はいかがか。近い将来、小川西町図書館に導入する予定があるならば、同じ時期に配備するなど、工夫はできないか。

事務局：検討課題である。

委員：資料No.2-2の4ページ、「2 学校等における読書活動の推進」のNo.1の実績に「読書活動の時間を、年間を通して計画的に確保し」とあるが、読書の時間は各学年などで決まりがあるのか。

委員：小学校では、低学年で週1時間の読書の時間を設けている学校が多い。中学年以上では他の教科の時間数が増えるため、毎週1時間の読書時間の確保が難しくなってくる。全体計画や年間指導計画では、授業の中で学校の図書室や団体貸出を利用するといった内容で実施しており、必ずしもクラス単位で時間を設けるといった内容ではない。

委員：No.3の実績で、学校図書館システムを活用した図書の予約とあるが、実施は3校くらいなので、入れないほうがよいと思う。No.7の実績で「図書館だよりを発行」とあるが、作成は各学校による。No.12の実績について、図書館が特別支援学級にマルチメディアデジ図書などを紹介しているという意味でよいか。

事務局：デジ図書については、中央図書館で展示を行い紹介した。

委員：先週、学校司書を対象とした研修で埼玉県立飯能高等学校の司書による講演を拝聴した。すみっこ図書館と称するその図書館では、本を読まなくてもいいから図書館に来てほしい、という意図が感じられ、こたつやゲームチェア、カプセルトイレなどで生徒の興味を引き出すユニークな図書館として有名である。実際には真似できないものが多いが、ホームページ等で見ることをお勧めしたい。

委員：市の公式ホームページの図書館特集を見ると、文字やイラストも大きく、レイアウトも見やすい。毎年掲載できないか。

事務局：作成は、秘書広報課が行ない、図書館は協力をした。来年度は、小平市立図書館が開館50周年を迎える年度であり、特集していただきたいと考えている。

委員：こどもたちの読書離れについて話題があったが、学校図書館での、漫画の取り扱いや評価はいかがか。

委員：公益財団法人東京都教育公務員弘済会による学校図書助成を活用することで、本校でも「漫画で学ぶシリーズ」の受け入れをしたことがある。そのシリーズ本を読みに来る生徒もいるので、図書館に来てもらうきっかけづくりとしては効果がある。一方で、どんな漫画でも良いわけではなく選書は必要だ。きちんと精査すればいいのではないか。

会長：小平市立図書館も、漫画を所蔵するようになったが、いかがか。

事務局：令和3年度から学習漫画を所蔵している。現在、令和6年度の補正予算において、学校への貸出用図書の購入費を要望している。津田梅子に関する本も少ないので、伝記漫画などを購入したいと考えている。

委員：小川西町図書館の移転に伴い、資料の買い替えを予定していると思う。近隣には高校や大学があり、若い人達の利用が期待されるので、ティーンズコーナーなどに若年層向けの良本や漫画をたくさん入れて欲しい。若い人の居場所としても工夫してほしい。

事務局：そのように検討している。そのほか課題として、近隣の高校は所在地が東村山市であるため、小平市在住ではない方への利用者カードの作成をどのように行うか課題である。

委員：こどもは、親の考え方に大きく影響される。スマートフォンの取り扱いも然り、読書への関心や習慣もそうであろう。効果が表れるまで相当の時間がかかるが、親世代への啓発も考えてはどうか。

事務局：読み聞かせ講座などもあるが、何か良いアイデアがあれば今後もお知らせいただきたい。

(2) 協議事項

なし

(3) その他

なし

(次回、令和6年11月12日(火)午後2時から開催予定)